

戦後70年、今こそ戦争を問う！

日本の敗戦から70年、戦争へ向けたきな臭い政治の動きを感じる今、対照的な二つの作品を上映いたします。「野火」(7/25公開)は、大岡昌平が日本軍の苦しい彷徨を小説で描いた原作を市川昆が50年前に映画化しましたが、鬼才塚本晋也監督が20年の構想を経て、遂に映画化、地獄のような戦場の真の姿を、徹底して描き出します。一方「この国の空」(8/8公開)は、戦場ではなく終戦間近の戦時下、激しい空爆と飢餓が迫る恐怖の中を生きる人々と、その生活を細やかに描いて、深い余韻を残します。両極でありながら、この2作品は<戦争の本質>に迫る作品として、戦後70年の今こそ、戦争を問いかけます。



「野火」先行特別上映 7/16 18時台予定 塚本晋也監督トーク
司会 久保俊哉 (札幌国際短編映画祭プロデューサー)

キノ23周年記念企画「学生映画感想文コンクール」開催中

これだけ世界がつながっている情報化社会でも、やっぱり世界は広く、多様な価値観や考え方がるように、世界には多様な映画があります。映画はダイレクトに感じることでできる優れた芸術であり、その多様な価値観を感じ、学ぶことに最適ともいえます。そして映画館で映画を観ることは、より強い体験として、観る者の心に響くと信じています。そのような機会を積極的に作るために、このコンクールを開催中です。詳しくはキノHPや専用チラシをご覧ください。

●関連レクチャー 4/25 「バードマン」 阿部嘉昭(北大准教授)
6/6 「あの日の声を探して」 外岡秀俊(作家、元朝日新聞ヨーロッパ総局長)
6/6 「恐怖分子」 阿部嘉昭(北大准教授)
6/22 「サンドラの週末」 早川渉(映画監督)

札幌国際芸術祭2017を勝手に応援キノシリーズトーク

第一弾 5/23 「Mommy」
上遠野徹(市立大教授)、富田哲司(アーティスト)、佐々木信(デザイナー)

第二弾 7/11 「スーパーローカルヒーロー」
「誰もが創造的、ローカルヒーローはすぐそばにいる」 田中トシノリ監督、永田まさゆき(アトリエオン)、吉田龍太(PROVO)、伊藤菜衣子(暮らし方冒険家)、司会 中島洋(キノ代表)

※不定期にこれからも続きます

原田芳雄追想

7/19(日)「ニワトリはハダシだ」を原田さんの命日に一回限り、35ミリフィルムで上映します。

映画は人生をお直します。

7月4日(土)公開

靴職人と魔法のミシン

心癒す極上のおとぎ話…靴職人より愛をこめて

NYの片隅で靴修理店を営む4代目の靴職人、アダム・サンドラー演じるサエない男が、ありふれた日常から“魔法のミシン”の力を借りて、ありったけの勇気をふるって走り出す、心温まるユーモアとサプライズの物語。最後にはお父さん(ダスティン・ホフマン)との絆にホロリ。そしてもうひとつの主人公がNY、ロウアー・イーストサイド。「ここはNYで最も古く、貧しい移民がアメリカで最初に住みついた地区。ボートでエリス島にたどり着いた人たちがそこに住み、仕事に就いてお金を稼ぎ、やがて国中に移住しました。それが活気ある事業や店のコミュニティを形成したのです。NYが高級化されて25年ほど経ちますが、ロウアー・イーストサイドは今も当時の面影を残しています。」と製作者。そしてマッカーシー監督は「ここは非常に個性的な街で、NYの多様性とロウアー・イーストサイドの歴史が、物語の中で重要な役割を担っているんだ。映画は1903年の長屋風の建物のシーンから始まり、ラストシーンに至るまでこの特別な街の歴史を引き合いに出している」。監督自身もここにオフィスを構え、映画には作り手たちのNYへの愛情がスクリーンの隅々までたっぷり息づいている。

8月28日(金)公開

わたしに会うまでの1600キロ

人生には、バカなことをしなきゃ、乗り越えられない時がある—

自分を取り戻すため一からやり直すと決めた。だがこの道は人生よりも厳しかった。たったひとりで3ヶ月間、1600キロの山道と砂漠を歩くという途方もない経験を1冊の本にまとめ、どん底の日々からベストセラー作家へと人生をリセットした女性、シェリル・スレイド、彼女を描いた感動の実話。「ダラス・バイヤーズ・クラブ」のヴァレ監督はこの原作を読んで深く感動し、私がこの作品を選んだのではなく、作品が私を選んだと感じたそう。「シェリルの友達になりたいと思った。地球という惑星で、荒野の中で、我々はどれほど小さな存在か、自然と深くつながっているか、どれだけ力強い存在になり得るかについて考えた。映画を原作と同じように感動的にするにはどうすればよいか?その答えはシェリルの声に忠実になることだ。シェリルは生と死、愛と悲しみについて、徹底した率直さで考える。そして何が悪いかを知ろうとするんだ。」そしてシェリルを演じたリース・ウィザースプーンは冒頭の高い山の峠で靴をおとすシーン、人生の大きな岐路に立った気がしたと。「あのロケ地は最高に美しい場所で、彼女は初めて、何があろうと自分はズタズタに引き裂かれたりはしないと悟るの。それまでは世の中のせいで自分が粉々に破壊されると考えていた。大自然の言葉にならない美しさを目に見ると、何だろうと自分は大丈夫だと思えるのよ。」

7月25日(土)公開

人生お直しできないこともあるかも…押したら、さいご

人生スイッチ

なんとアルモドバル製作、アルゼンチン歴代NO1! 驚愕&爆笑必至! 思いがけないラストに、こんな映画見たことない!! ……だから人生はおもしろい。



今号のごあいさつ

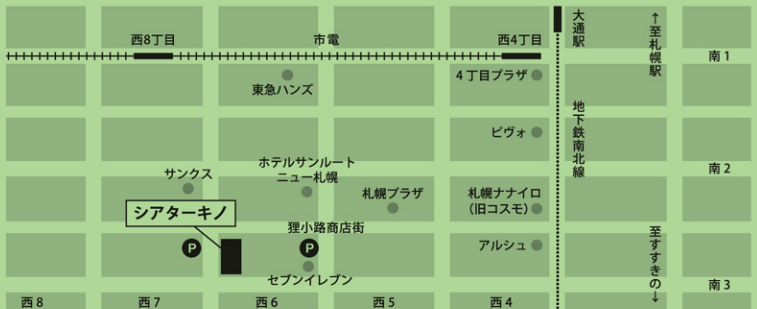
さわやかな風が心地よい初夏の香りがしてきましたね。夏の号が出来上がりました。太陽の光に向かって手を差し伸べる、ひらひらひらとまるで会話を楽しんでいるよう。「今日魂に会えた。小さくもろい魂。驚くべき魂。囚われた檻の中から魂が輝いていた。」盲ろうのマリーは10歳の時シスター・マルグリットと出会い、「言葉」の存在を初めて知ります。気持ちを伝え、心を通わせ合うことができる、それは喜びであり、世界が輝きを持つ瞬間でした。そしてまた命には限りがあることも知ってゆくのです。「奇跡のひと マリーとマルグリット」、ふたりはふりそぐ光の中で希望と出会いました。そしてもうひとり、光の画家「ターナー」。画家の目で画家の描いた景色を見たい、という夢がなかったよう、スクリーンは光が解放されたターナーの名画のような美しさ。今年も無事迎えることができました、7月4日、心温まるお話「靴職人と魔法のミシン」でキノは23歳を迎えます。この年数と共にキノの椅子も傷みが大きく修繕張替を少しづつですがしていきます。日本の職人さん達の技術を生かして日仏合作のイスに。大切に長く使っていけるといいなと思っています。これからもキノをよろしく願いいたします。

支配人 中島ひろみ

2015年度キノ会員(スタンダード・シニア・学生会員)9月30日まで延長募集!

ご利用期間~2016年3月31日

※ビンテージ会員募集は終了いたしました。



TREATER
KINO

札幌市中央区狸小路6丁目南3条グランドビル2F
TEL 011 231 9355
www.theaterkino.net / webmaster@theaterkino.net